

オープンキャンパス 国際日本学部歴史民俗学科 「古文書・民具の見学・体験ツアー」

日時：2019年8月8日（木）・9日（金）・10日（土）①12:00～13:00 ②13:15～14:15
会場：神奈川大学横浜キャンパス3号館206、地下2階 日本常民文化研究所古文書修復室
講師：前田禎彦 関口博巨

古文書・民具に親しむ

前田 禎彦

2019年8月8日～10日に開催された神奈川大学のオープンキャンパスでは、翌年度2020年4月に新たに設置される国際日本学部歴史民俗学科の特別イベントとして「古文書・民具の見学・体験ツアー」が行われた。

歴史民俗学科は、“日本の歴史・民俗を学び、文化資源として現代に活用する”をコンセプトに開設される新学科で、カリキュラムには、日本常民文化研究所や非文字資料研究センターの所蔵資料を利用した実習科目も用意され、大きな魅力になっている。オープンキャンパスでは、その授業のエッセンスを紹介し、受験生の皆さんに関心をもっていただくため、古文書・民具などの資料を直接見て触れて体感するツアーを準備した。

ツアーは3日間に計6回、1回1時間ほどを使って行われ、さまざまなイベントが学内で催されている中、毎回平均して10数名ほどの参加者を得ることができた。講師は所員で新学科の教員となる関口博巨・前田禎彦が務めた。

最初に日本常民文化研究所について簡単に紹介したあと、場所を3号館地下2階古文書修復室に移して、①小絵馬・作業着・細工物などの民具や戦時紙芝居などの陳列・解説、②船模型や民具などを収めた収蔵庫の見学、③古文書の陳列・解説、④大学院生らによる古文書修復作業（裏打ち）



写真1 細工物などの所蔵資料を展示し、解説を行った



写真2 院生による古文書修復作業（裏打ち）の実演

の実演、④古文書整理の際に用いる紙漙（こより）の作成や、簡単なくずし字の解読など、盛り沢山な内容であった。

短い時間であったが、初めはおそろおそろ民具や古文書を目にし、手にしていた皆さんも、自ら作業していくうちに資料に親しみを感じていただけるようになったと思われた。日ごろ博物館などで展示資料を見る機会は多くあったと思うが、その資料がどのように整理・保存され活用されているのか、そのためにどのような知識や技能を身につける必要があるのか、その一端をかいま見る機会になったとすれば幸いである。

今回参加してくださった皆さんの中から国際日本学部歴史民俗学科に入学し、そこでの学びを活かして社会のさまざまな分野で活躍できる人間に育てていただくことが私たちの願いであるが、日本常民文化研究所の活動を若い方々に知っていただく機会としてもオープンキャンパスの場は有効であるように思われた。なお、開催に当たって入試センターおよび日本常民文化研究所の職員の皆さんのご協力に感謝いたします。

古文書ツアーの概要

関口 博巨

古文書ツアーの主なメニューは、①常民研所蔵の古文書と筆写稿本の見学、②歴史民俗資料学研究科の大学院生による古文書修復の練習の見学、③ミニ古文書実習（古文書という言葉の意味、和紙の性質、くずし字の読み方、等々）である。

- ① 展示した古文書は、江戸時代の由緒・系図関係史料、御城米船の証文、狐憑き関係の歎願書などである（主に二神司朗家文書）。そのなかには、修復済みの古文書も数点含めた。初めて見る本物の古文書に、高校生たちは目を輝かせていた。



写真3 くずし字を読む体験実習

とくに、繕いや裏打ちなどの繊細な技法には驚いた様子だった。

- ② 展示見学の後は、すぐに大学院生による裏打ちの練習の見学へ。修復済みの古文書を見た直後だけに、高校生たちの表情はいよいよ真剣になっていった。
- ③ 最後に、「古文書を学ぶ 和紙とくずし字に親しもう」という小冊子を配布して、短時間だが、体験実習を行った。高校生たちは、修復用の和紙を破いたり、水に浸けたり、こよりを作ったりして、日頃触ることのない和紙に親しんだ。おしまい、古文書のコピーで、簡単なくずし字の読み方をレクチャー。会場を退出する前に、展示中の本物の古文書で、覚えてたのくずし字を確かめてもらった。

今回のオープンキャンパスは、歴史民俗学科の認知度がいまだ低いなかでの開催だった。それでも、参加してくれた高校生たちには、新学科の基礎には常民研があり、入学すれば、フィールドワークの経験を積み、古文書や民具に親しむことができることを伝えられたように思う。新学科のこれからに期待したい。